

M 情報

2019.5

自家治療をしている農家さんに〇〇の薬は何 ml 注射すればよいのか？と質問を受けることがあります。

バイトリル 10%を肺炎に使用することを例にすると、添付書には…

『本品 1ml 中にエンロフロキサシン 100mg を含有する。

1日1回体重 1Kg あたり 2.5～5mg、3～5日間、頸部皮下注射』とあります。

mg って…知りたいのは注射する量 (ml) なんだけどな～と思ったことはないでしょうか？薬の種類を覚えるのに精一杯だった去年の私は強く思いました。(笑)

結論から言うと体重 50 kg の肺炎子牛へのバイトリル 10%の投与量は 2.5ml となります。

計算方法は以下の通りです。

体重 1Kg あたりの投与量は 2.5～5mg です。今回は体重 1 kg あたり 5mg 投与とします。

体重 50 kg では 250mg の投与が必要となります。

次に、250mg が何 ml なのかを計算していきましょう。

1ml 中に 100mg のエンロフロキサシンが含まれているので 250mg は 2.5ml ということとなります。

つまり、50 kg の子牛への投与量は 2.5ml となります。

計算が面倒くさいという方のために主な抗生剤の投与量の表を作りましたので、良かったら活用してください。今回は添付書に記載されている適応症例と投与量を表にしました。抗生剤の中には搾乳牛や定められた月齢以上には使用できないもの（ドラクシン、バイトリルワンショット、テラマイ LA、フロロコール、ミコチル等）もありますので、使用する際は添付書を見て用法用量を守って使用してください。

薬品名	適応症	投与量		
		10kg	50kg	100kg
懸濁水性プロカイン ペニシリン G 注 NZ	肺炎 乳房炎 術後の感染予防	0.13-0.16 0.33-0.5ml 0.33-0.66ml	0.65-0.8 1.6-2.5ml 16-33ml	1.3-1.6ml 3.3-5ml 33-66ml
注射用アンピシリン ナトリウム NZ	肺炎 乳房炎 産褥熱	0.2-0.4ml 0.3-0.4ml	1-2ml 1.5-2ml	2-4ml 3-4ml
エクセネル注	肺炎 趾間フレグモーネ 産褥熱	0.2-0.4ml	1-2ml	2-4ml
硫酸カナマイシン 注 250「KS」	肺炎 気管支炎 細菌性下痢症 細菌性関節炎 乳房炎	0.2-0.4ml	1-2ml	2-4ml
動物用マイシリンゾル 「KS」	乳房炎 術後感染症の予防 肺炎 気管支炎 放線菌症 細菌性関節炎	0.2-0.4ml	1-2ml	2-4ml
フロロコール 200 注射液	細菌性肺炎	0.5ml	2.5ml	5ml
バイトリル 10%	肺炎 細菌性下痢症 甚急性及び急性乳房炎	0.25-0.5ml 0.25ml 0.5ml	1.25-2.5ml 1.25ml 2.5ml	2.5-5ml 2.5ml 5ml
バイトリルワンショット	肺炎	0.75ml	3.75ml	7.5ml
マルボシル	細菌性肺炎	0.2ml	1ml	2ml
OTC 注 10%	肺炎 細菌性下痢症 細菌性関節炎 乳房炎	0.2-1ml	1-5ml	2-10ml

薬品名	適応症	投与量		
		10kg	50kg	100kg
テラマイシン LA 注射液	肺炎 趾間ふらん 細菌性下痢症 細菌性関節炎	1ml	5ml	10ml
ドラクシン	細菌性肺炎	0.25ml	1.25ml	2.5ml
動物用タイラン 200 注射液	肺炎 乳房炎 子宮内膜炎	0.2-0.5ml	1.25-2.5ml	2-5ml
ミコチル 300 注射液	肺炎	0.3ml	1.5ml	3ml

上記の表は添付書の記載を基に作成したものです。診療では症状に応じて投与量を変えることがあります。不明点や質問等ありましたらご連絡ください。

富田大祐